令和８年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査の結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は、平成24 年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより､武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学６年生、中学３年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県小・中学校学習状況調査の結果です。全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

令和８年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立若木小学校

１　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	５年時	６年時	５年時	６年時
R３入学 現６年生	県	全国	県	全国
	57.9	50.0	48.1	40.0
	(0.95)	(0.89)	(0.77)	(0.77)
R8正答率の全国比		0.82		0.71

◎５年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、６年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和８年正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○国語

【正答数と正答率による分析】

・校内平均正答数は６.６、佐賀県平均正答数７.２、全国平均正答数７.９であった。県と比較して０.６ポイント下まわる。全国と比較して１.３ポイント下まわる。

・校内平均正答率は５０％、全国平均正答率６０.９％であった。県と比較して６ポイント下まわる。全国と比較して１０.９ポイント下まわる。

【正答数分布からみた分析】

・正答数５問以下は全体の２８％、６問から７問は４４％、８問から９問は６％、１０問から１３問は２２％である。全体的に見て正答数が少ない。

【問題別分析】

○正答率が低い問題
・（言葉の特徴や使い方）に関する問題は、平均正答率が４８.６％である。県と比較して１２.８ポイント下まわる。全国と比較して１８.２ポイント下まわる。
・（情報の扱い方）に関する問題は、平均正答率が３８.９％である。県と比較して7.７ポイント下まわる。全国と比較して１３.４ポイント下まわる。
・（短答式）問題は、平均正答率が３８.９％である。県と比較して１８.２ポイント下まわる。全国と比較して２３.７ポイント下まわる。
○正答率が高い問題
・（書くこと）に関する問題は、平均正答率が５０％である。県と比較して１８.７ポイント上まわる。全国と比較して４.３ポイント上まわる。
【学習指導要領の内容からみた分析】
・全国、県の正答率に比べて低い内容は（資料を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫することや漢字を正しく書くこと）である。

○算数
【正答数と正答率による分析】
・校内平均正答数は６.４、佐賀県平均正答数８.４、全国平均正答数９.０であった。県と比較して２.０ポイント下まわる。全国と比較して２.６ポイント下まわる。
・校内平均正答率は４０％、全国平均正答率５６.４％であった。県と比較して８ポイント下まわる。全国と比較して１６.４ポイント下まわる。
【正答数分布からみた分析】
・正答数５問以下は全体の５５％、６問から８問は１１％、９問から１１問は２２％、１２問から１６問は１２％である。全体的に見て、正答数が少ない児童が半数を超えていることと、正答数が多い児童もいることから、学級内で算数の学力差が著しいことが分かる。
【問題別分析】
○正答率が低い問題
・（数と計算）に関する問題は、平均正答率が４６.５％である。県と比較して１０.３ポイント下まわる。全国と比較して１４.６ポイント下まわる。
・（図形）に関する問題は、平均正答率が３６.１％である。県と比較して１３.９ポイント下まわる。全国と比較して１９.２ポイント下まわる。
・（測定）に関する問題は、平均正答率が５５.６％である。県と比較して１８.９ポイント下まわる。全国と比較して２２.５ポイント下まわる。
・（変化と関係）に関する問題は、平均正答率が２２.２％である。県と比較して１３.９ポイント下まわる。全国と比較して１８.９ポイント下まわる。
・（データの活用）に関する問題は、平均正答率が３８.９％である。県と比較して５.３ポイント下まわる。全国と比較して９.７ポイント下まわる。
○正答率が高い問題・該当なし
【学習指導要領の内容からみた分析】
・全国、県の正答率に比べて低い内容は（全領域の知識・技能、特に図形の求積や割合問題）である。
・全国、県の正答率に比べて同じ内容は（数や言葉を用いた記述や条件に合う数の読み取り）である。

・全国、県の正答率に比べて高い内容は（数と計算：仕組みを理解して条件に合った小数をつくること）である。
・全国、県の正答率に比べて同じ内容は（比喩や反復などの表現の工夫をすることや目的に応じて必要な情報を見つけること）である。
・全国、県の正答率に比べて高い内容は（話の構成や展開を考えること）である。

【意識調査からみた分析】
・1日あたりのスマートホン・ゲーム等の使用時間は全国、県平均より少ない。
・「自分にはよいところがありますか」の問いでは、全国、県平均と比較して、「当てはまる」が少なく、「当てはまらない」が多い。
・「授業以外で1日当たりどれくらい勉強をするか」という設問に対して、約7割が30分から1時間であり、全国、県と比較して、学習時間が少ない。
・授業以外で全く読書をしない割合は4割で、全国、県と比較して多い。
・国語、算数とも授業内容が分からないと回答している児童が全国、県と比較して多い。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

○日常の授業の工夫
・学習への意欲を高めるために、児童がやってみたい！解いてみたい！と思うようなゴールを設定する。
・国語科では、全体⇒3人班⇒ひとりひとりと学び方を変えつつ、学び方を教えていく。読み取りや要約する力は個人差があるので、協働的な学習の時間を多く取り入れる。
・算数科では、学力の差が目立つので、自由進度学習も取り入れながら、練習問題のときは習熟度に分かれた問題を用意しておく。
・４月に比べ、夏休み前の単元テストは全体的に平均点も上がってきている。単元テストのような出題方法には慣れているものの、全国学力・学習状況調査のような、３つの資料の同時読み取りや大問から派生していくような問題には慣れていないので、経験させることが必要である。
○校内研究でも、1人1台端末を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業実践に取り組んでおり、今後も実践研究を重ねていく。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

○若木っ子タイム（基礎・基本学力向上の時間）の充実
・基礎基本が弱い傾向にあるが、習熟度で量と質を分け、ひとりひとりの力を伸ばす。
・主に算数科の問題に取り組む。月の第１週は漢字、第２・３週は算数科、最終週は小テストなど、計画的に行うと、本学級の児童は見通しもでき意欲的に取り組める。
○タブレットドリル（ミライシード等）を活用し、家庭学習の充実を図る。
○毎月「生活リズムチェック週間」を設定し、家庭との連携を図りながら、よりよい生活習慣、学習習慣の定着を図っていく。また、児童の実態に合わせた家庭学習の課題の提示や内容の工夫を図り、ＩＣＴ機器の活用を含めた家庭学習の充実に努めていきたい。
○読書の時間の確保